

令和6年度 第1回松江市スポーツ推進審議会 議事録

1 日 時 令和6年8月29日(木) 10時00分～11時46分

2 場 所 松江市役所 第二常任委員会室

3 出席者

(1) 委員(12名)

安部委員、大塚委員、岸本委員、坂元委員、白水委員、中村委員
西村委員、福田委員、松浦委員、三島委員、山縣委員、湯町委員
(欠席：森山委員)

(2) 上定市長

(3) 事務局

松江市文化スポーツ部 桑原部長

松江市文化スポーツ部スポーツ課 佐々木課長、山尾係長、三原、三代、下田

4 次 第

- | |
|---------------------------------|
| 1 開会 |
| 2 市長あいさつ |
| 3 委嘱状交付、委員紹介 |
| 4 会長・副会長の選出 |
| 5 諮問 |
| 6 審議会の役割について |
| 7 議事 (1) 現行(第2期)松江市スポーツ推進計画について |
| ① 進捗状況及び評価 |
| (2) 第3期松江市スポーツ推進計画(案)について |
| ① 策定方針・スケジュール |
| ② 体系図(たたき台) |
| (3) その他 |
| 8 事務連絡 |
| 9 閉会 |

5 議事等の要旨

(1) 会長・副会長の選出

会長に、松浦委員、副会長に西村委員を選出した。

(2) 諮問

第3期松江市スポーツ推進計画(案)について、市長から諮問を行った。

(3) 議事

現行(第2期)松江市スポーツ推進計画の進捗状況及び評価について報告の後、
第3期松江市スポーツ推進計画(案)について各委員から意見を聴取した。

6 会議経過 別紙のとおり

7 所管課等 松江市文化スポーツ部スポーツ課(電話 0852-55-5296)

会議経過

(10時00分 開会)

1 開会

○事務局（山尾係長）

おはようございます。ご案内しておりました時間になりましたので、ただいまより、令和6年度第1回松江市スポーツ推進審議会を開催させていただきます。

本日、議事に入るまで進行を進めさせていただきます。スポーツ課の山尾でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の審議会でございますが、会議は公開の会議とさせていただきます。報道機関をはじめ、一般市民の方も傍聴可能となりますことをお知らせさせていただきますので、あらかじめご承知おきください。なお、本日は、概ね2時間程度、12時を終了予定時刻としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。

2 市長あいさつ

○事務局（山尾係長）

まず初めに、松江市長上定昭仁より、ご挨拶を申し上げます。

○上定市長

皆さんおはようございます。

今日は朝早くから第1回松江市スポーツ推進審議会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、委員の皆様には、委員のご就任をお受けいただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。今日から2年間また、よろしくお願いいたします。

この夏を振り返りますと、スポーツで持ち切りの夏休みだったなというふうに感じるところでございます。まずはパリオリンピックがございまして、日本の選手団の活躍というのが、海外で開催したオリンピックとして金メダルの数、あと金銀銅のメダルの総数、史上最多という素晴らしい成績を収められました。そしてまた、大社高校でございますが、ご存じの通り大社高校のベンチ入りしたメンバーの中に3人、松江市内の中学校の出身者がいらっしゃいます。今日岸本校長先生も来ていただいておりますが、我が東出雲中学校の安松さんが、手を挙げて、3塁線に素晴らしいバントを決められたという勝利の立役者でもございましたし、キャッチャーでありました松江四中出身の石原さんでありますとか、玉湯学園出身の福間さんという方もメンバーに入ってもらっていました。隠岐から3人いらっしゃったり大田から2人いらっしゃったり、出雲市外でもたくさん、1人は境港からいらっしゃっていましたが、まさにオール島根というチームでございましたので、我々も手に汗を握って応援していたということもこの夏も大変いい思い出となっております。

また、私にいろいろと声をかけていただきまして、サッカーとかバレーボールとか、市内

の小中学生が島根県大会或いは中国大会で勝ち抜いて全国大会に何人も進出しております、松江市内から、県代表或いは中国地方の代表として、進出された皆さんを激励に伺いましたり、来ていただいて表敬訪問していただいたりということで、活躍が非常に目に見えておりましたので、そういった今後の将来を、松江のスポーツを担ってくれるようなこどもたちがたくさん出てきてくれているということが大変うれしく思っております。

そしてまた、この10月からはBリーグがまた開幕いたします。中村COOにもお越しいただいておりますけれども、今、市総合体育館の改修の準備も進めているところでございますが、今期2024-25シーズンはチャンピオンシップ進出に向け、またチャンピオンの獲得に向けて、スサノオマジックも期待に応えてくれるものと固く信じているところでございます。

こうした中で、本日、審議会の委員の皆様にお集まりいただきまして、第3期となりますスポーツ推進計画についてご審議をいただくこととなっております。第2期の計画を令和2年3月に策定いたしまして、その直後からコロナ禍に突入いたしました。ですので、なかなか実行が難しかったこともございましたし、特に競技団体をはじめ、本日来ていただいております皆様方にも、コロナ禍において、スポーツ推進計画に則った活動を、できる限り感染予防対策もしながら、いかに進めていくかということで大変お骨折りをいただきました。

その第2期の振り返りもしながら、第3期においては、コロナも落ち着きましたので、改めて、松江のスポーツの推進に至るような計画を作っていく必要があるというふうに認識をしております。

まず何より、来年はインターハイ、全国高校総体の男子バレーボールが松江で開催されますし、今から6年後の2030年には島根かみあり国スポ・全スポ、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が島根県で開催されるということを大きな念頭に置く必要があると思っておりますし、そのための市民のスポーツに対する取り組みの推進でありましたり、また全国からそういった選手をお迎えできる環境の整備、満足して帰っていただけるような体制を整えたりしていく必要があるというふうに認識をしております。

皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、充実したスポーツ計画を作っていきたいと考えておりますので、ご理解ご協力のほどお願いいたしまして、私の開会のご挨拶とさせていただきます。本日よりよろしく願いいたします。

3 委嘱状交付、委員紹介

○事務局（山尾係長）

続きまして、次第の3番目、「委嘱状交付、委員紹介」を行います。

皆様には、就任の委嘱状の交付をさせていただくこととなりますが、本日は限られた時間ですので、なるべく審議時間を確保したいと思っております。大変な略式で、失礼でございますが、委嘱状はあらかじめお席に置かせておいていただいております。この点、ご了承いただきたいと思います。

それでは委員紹介に移らせていただきます。本日、第1回目の審議会となりますので、

委員の皆様を紹介させていただきます。委員名簿をご覧ください。それでは、名簿順に紹介をさせていただきます。

〔委員紹介〕 ※会議録では敬称略

氏名	所属・役職
安部 晶	松江市障害者スポーツ協会 会長
大塚 享義	一般社団法人松江観光協会 常務理事
岸本 行夫	松江市中学校体育連盟 会長
坂元 キワ子	松江市レクリエーション団体連合会 会長
白水 照之	株式会社日本政策投資銀行 松江事務所長
中村 律	株式会社バンダイナムコ島根スサノオマジック 代表取締役 COO
西村 覚	島根大学教育学部 准教授
福田 礼子	松江市スポーツ推進委員協議会 監事
松浦 嘉昭	松江市スポーツ少年団本部 本部長
三島 利恵	松江商工会議所 女性会 総務委員長
森山 達也	山陰中央テレビジョン放送株式会社 取締役
山縣 みはる	松江市地域体育協会連合会 理事
湯町 信夫	公益財団法人松江体育協会 専務理事

なお、森山委員は、本日ご都合により欠席でございます。

どうぞよろしく申し上げます。

4 会長・副会長の選出

○事務局（山尾係長）

続きまして、「会長及び副会長の選出」についてでございます。

松江市スポーツ推進審議会規則第 2 条の規定に基づきまして、会長及び副会長各 1 名、委員の互選によって定めることとしております。会長、副会長の選任について、委員の皆様からご提案もしくはご推薦があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

〔湯町委員 挙手〕

湯町委員どうぞ。

○湯町委員

湯町でございます。この度の審議会ですけれども、第 3 期のスポーツ推進計画の策定ということが大きな使命としてあるということでございます。そういたしますと第 2 期との整合性ですとか、反省すべきところは反省し改めるですとか、さらに充実すべきところは充実していく必要があるのかなというふうに考えて、そういたしますと第 2 期でも会長、副会長を務めていただいた松浦委員に会長、西村委員に副会長をお願いしたらどうかなと思っておりまして、提案をさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○事務局（山尾係長）

ありがとうございます。ただいま、湯町委員からご提案がございましたが、皆様いかがでしょうか。

〔委員一同 拍手〕

それでは会長、松浦嘉昭委員、副会長、西村覚委員にお願いしたいと思います。よろしく
お願いいたします。

大変恐れ入りますが、松浦会長、西村副会長におかれましては、会長席、副会長席にご移
動をお願いいたします。

〔松浦委員、西村委員 移動〕

5 諮問（松江市スポーツ推進計画（案）について

○事務局（山尾係長）

ここで、松江市スポーツ推進計画案の策定について、市長から松浦会長へ諮問書をお渡し
いたします。

〔上定市長から松浦会長へ諮問書を交付〕

○上定市長

第3期松江市スポーツ推進計画（案）について貴審議会の意見をお伺いさせていただきま
す。よろしくをお願いいたします。

○事務局（山尾係長）

ここで委員の皆様にお知らせいたします。

大変申し訳ございませんが、市長は公務のためここで退席させていただきます。

○上定市長

失礼いたします。よろしくをお願いいたします。

〔上定市長 退席〕

6 審議会の役割について

○事務局（山尾係長）

議事に入る前に、松江市スポーツ推進審議会の役割について事務局より説明させていた
だきます。

○事務局（佐々木課長）

失礼いたします。松江市スポーツ課で課長しております佐々木と申します。本日よろしく
お願いいたします。

お手元の中の資料 1 をご覧ください。松江市スポーツ推進審議会の概要でございますけ
れども、まず皆様方をお願いをさせていただきたいことといたしましては、地方スポーツ推
進計画、その他スポーツの推進に関する重要事項の調査審議をお願いをさせていただけれ
ばと思っております。

委員定数についてはご一読いただければと思います。

会議回数についてでございますけれども、令和6年度、今年度につきましては、先ほども
お伝えさせていただいております、スポーツ推進計画についての審議を皆様をお願いをさ
せていただきたいというところから、現在、8月、10月、2月の3回、お願いさせていただ

ければと思っております。そして令和7年度以降につきましては、年2回、今の想定でございますが5月頃、11月頃の2回にさせていただければと思っております。来年度以降の会議につきましては、今回、策定をいただきます推進計画の進捗の管理とともに、今後松江市でいろいろな事業を行っていく上での皆様方からのご意見というものをいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお根拠法令につきましては、それぞれ参考資料を付けておりますので、よろしくお願いいたします。私からの説明は以上となります。

7 議事

○事務局（山尾係長）

それでは次第の7番目、議事に入らせていただきます。はじめに、松浦会長、西村副会長からご挨拶をいただいた後、議事進行を松浦会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○松浦会長

先ほどご紹介いただきました松浦でございます。先ほど皆さん方からご承認いただきまして、この会の進行役を務めさせていただくということで、責任の重さを痛感しているところでございます。ちょうど、パラリンピックも始まります。先般、オリンピックも無事終わりました。やはりスポーツが与える影響というのは、こういう節目の年に大きく膨らんでくる効果があるというように私も認識しているところでございます。このスポーツ推進審議会におきましては、私どもの意見を調整する中で、将来の市民スポーツ、そしてまた市民の生活環境等に関する大きな課題が生まれていると思っておるところで、皆さん方のご意見をいただく中、諮問に対して、正確に、そしてまた夢のある答申をさせていただきたいと考えているところでございます。皆さんにおかれましては、一層のご協力、ご発言をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○西村副会長

副会長を務めさせていただきます。西村です。前回の改定から、コロナ禍、そしてコロナが何とか収まって日常のスポーツが戻りつつある現在ですが、熱中症対策などまた新たな課題も現れているという昨今です。スポーツをさらに推進し、松江市の皆様の健康をより一層高めていくにあたっては、この推進計画は非常に重要なものになると思いますし、新たな考え方を持って取り組むことが必要だと思えます。ぜひとも皆様方の忌憚のない意見をお聞かせいただいて、良いものにしていけたらなというふうに思います。松浦会長をしっかりと支援をしながら、よりよい答申が出せるよう尽力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（山尾係長）

それでは議事進行のほど、松浦会長よろしくお願いいたします。

(1) 現行（第2期）松江市スポーツ推進計画について

○松浦会長

はい。それでは早速でございますが議事の進行をさせていただきますので、皆様のご協力をお願いいたします。最初に、現行の第2期松江市スポーツ推進計画について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

失礼いたします。スポーツ課の佐々木です。私からご説明させていただきます。

まずお配りしている「松江市スポーツ推進計画（令和2～6年度）（概要版）」をご覧ください。こちらが、令和2年から6年度、第2期の松江市のスポーツ推進計画となっております。基本理念といたしましては、「スポーツでつくる幸せなまち松江～誰もがスポーツをする・みる・ささえるで楽しむまちづくり～」とさせていただきます。スポーツをする人、みる人、ささえる人、すべての視点の中で、皆さんがスポーツに親しみ、明るく豊かで、幸せな生活を送ることができるまちを目指すということを基本理念としております。その基本理念のもとに基本方針と基本施策というものを作っております。基本方針が5つの項目があります。その5つの項目のさらに下に、項目ごとに成果指標ということで数値目標を入れさせていただきます。その数値目標を達成するための基本施策としてどういったものがよいのかということ、さらに中に入れさせていただいたものが、現在の計画でございます。

基本方針といたしましては、基本方針1「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」ということで、それぞれがそれぞれの場面に応じてスポーツ活動を推進していくということ、そして2番目「健康づくりを楽しむスポーツの推進」ということで、3番目は「夢と感動をきっかけとしたスポーツの推進」ということで、こちらは島根スサノオマジックさんの平均観客数を挙げさせていただきます。4番目は「スポーツによる地域活性化」ということで、松江城マラソンですとかまつえレディースハーフマラソンの参加申込者数を数値目標に挙げさせていただきます。5番目といたしましては「スポーツ活動をささえる環境の整備」ということで、ささえる方についての視点を挙げた項目として分けさせていただいたところでございました。

そういった計画を策定いたしました。先ほど市長も申しあげましたように、令和2年以降コロナ禍となりまして、スポーツ活動、特に大きな大会というものが軒並み中止となりまして、この計画自体を進めていくことが非常に難しくなっております。その後、少しずつスポーツ活動も再開しまして、令和4年度、一昨年度からは大会なども開催ができるようになり、昨年5月には新型コロナウイルスが2類から5類へと移行したことによりまして再開をしたという状況でございます。

こういった事情を踏まえまして、**資料2**をご覧ください。先ほどの計画の成果指標というものがどのようになっているのかということをご説明させていただきます。まず基本方針1「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」の成果指標①「成人

の週1回以上のスポーツ実施率」ということで、真ん中のところに目標値を記載しておりますけれども、こちら、目標値を65%としております。こちらにつきまして、まちづくりのための市民アンケートというアンケートを松江市で毎年取っているんですけども、この数値といたしましては、令和5年度は41.3%ということですので、目標65%に対してまだ足りていないというところがございます。令和2年のときは38.2%でしたので、少しずつ上がってきているところではありますけれども、今現在はまだまだというところがございます。次に「卒業後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う中学生の割合」ということで、こちらは全国の調査の中から松江市の数字を引っ張ってきたものですが、目標値を80%としておりました。令和5年度の結果といたしましては81.3%で、こちらは目標値を達成しているところがございます。ただ、ご覧いただくと、2021年、2022年、2023年とちょっとずつ数値が下がってきているという現状がありますので、クリアしていますけれども、また上に上がっていくような傾向にしていきたいと考えているところです。3番目は「市営スポーツ施設年間利用者数」です。こちらは松江市が抱えております50のスポーツ施設の年間利用者数で、目標値としては130万人を設定しておりました。しかしながら、コロナ禍によって一気に数値が落ちておまして、今現在は回復基調にあるところがございますけれども、令和5年度の数値といたしましては117万7,000人ということ、まだ戻り切っていないというところがございます。

続きまして、基本方針2の「健康づくりを楽しむスポーツの推進」でございます。成果指標としては「健康寿命(65歳平均自立期間)」を入れさせていただいております。65歳から数えて介護を必要とせずに自立して健康で生活できる期間の平均ということで、目標値としましては、女性については21.66年、男性については19.06年と掲げさせていただいております。直近の令和5年、ちょっと調査期間にタイムラグが生じるものですから、2019年から2021年の平均値ではございますけれども、女性につきましては21.78年ということで目標を上回っており、男性については18.43ということで、ちょっと目標を下回るというような状況でございます。

続いて基本方針3「夢と感動をきっかけとしたスポーツの推進」の成果指標といたしまして、「島根スサノオマジック平均観客数」というのを掲げております。こちらは2024年で目標値4,000人ということございましたけれども、昨年ところで、4,219名の皆さんにご来場いただいて目標を達成している。もちろんチームの方で大変成績も上げていらっしゃいますし、観客の動員について努力していただいておりますというところがありまして、目標達成できたというところがございます。次の「松江シティFC平均観客数」につきましては、チームが残念ながらなくなってしまいましたので、こちらについては数値としては出しておりません。

次に基本方針4「スポーツによる地域活性化」のところでございます。「国宝松江城マラソン参加申込者数」は目標値を5,500人としておりました。昨年度は3,751人の参加ということで、目標未達となっております。こちらは2020年、21年と2大会連続コロナで中止

をして、その後再開をしております、ちょっとずつ人が戻ってきているところではありますが、目標数値までたどり着いていないという状況でございます。同じように「まつえレディースハーフマラソン参加申込者数」、こちらも目標数値を2,700名としておりましたけれども、昨年度は1,662名ということで、こちらも先ほど松江城マラソンと同様の傾向にあると言えます。次に「松江版地域スポーツコミッションの設立」というところがございます。このスポーツコミッションというのは、スポーツを通じて、スポーツ団体、民間企業、市などが連携して、地域の活性化に向けた取り組みをするための組織でございます。今回、委員の皆様の中にもスポーツコミッションの設立準備委員会の委員もお願いさせていただいている方もいらっしゃいますけれども、今年度末を目標にスポーツコミッションの設立をするということを計画しておりますので、今の段階では未設置ではございますけれども、達成見込みとしてはできるのかなというふうに考えているところです。

次に基本方針5「スポーツ活動をささえる環境の整備」につきましては、1つ目が「国宝松江城マラソン・まつえレディースハーフマラソン ボランティア協力者数」でございます。こちらの目標値を2,000人としておまして、2023年昨年度のところでは1,417名の皆さんにボランティアにご参加いただいたというところでございます。ただこちらの方は、大会の運営をより効率的というところを考えておまして、そもそもボランティアの人数を少し大会ごとに調整していく必要も出てくるかなと思っておりますので、目標数値の方も検討していかないといけない、少し下げた人数していかないといけないかなと考えているところでございます。次に「スポーツボランティアバンクの設立」ということで、指導者ですとか支援者などの登録制度というところですが、こちらは、例えば大会の指導者ですとか、大会を運営する際のボランティアというものの登録制度を設立して、登録していただいている皆さんの中で、このタイミングであれば自分もボランティアに出られるよというような形でご協力をいただくというような制度の設立を目標として掲げておりました。こちらについては、現在はまだ達成できてはおりませんが、先ほど申し上げましたスポーツコミッションの中で、こういったボランティア制度の設立というものを目指しております、ちょっと今年度中は難しいんですけども、来年度以降のところでは設立ができればというふうに考えているところでございます。

以上が第2期のスポーツ推進計画の大まかな概要と成果指標について現状のご説明でございます。

○松浦会長

ただいま説明がございましたけれども、この件に関しまして、ご質問、ご意見がありますでしょうか。ご自由に意見を言っていただければと思います。

〔中村委員挙手〕

○松浦会長

はいどうぞ。

○（中村委員）

島根スサノオマジックの中村でございます。

前回までの論議の中で、このK P Iを策定するときに、民間企業の経営数値に関わるものを成果指標に入れることはいかがなものかという論議はあったというふうに記憶はしておりますけれども、島根スサノオマジックの数字も入れていただきました。おかげさまで、1年前倒しということで達成することができました。これを5千人、6千人にしろというようなことになってくると、どうしても箱の問題、キャパがございますので、頭打ちになると思うんですけれども、御礼といたしまして、ご報告を兼ねまして、島根スサノオマジックは数字を達成することができましたということをお願いしたいと思います。

あわせて松江シティFCさん、残念ながらチームが解散をされたということでしたけれども、やっぱり、地域の中で、地域のスポーツを育てていくということに対して、やや少し動きが弱かったかなというふうに傍から見て思うこともありますので、私どもはっていうことで一生懸命頑張るんですけれども、そういった機運を高めていくことも必要なんじゃないかなということを感じました。以上でございます。

○松浦会長

はい。貴重な成果とご意見をありがとうございました。いかがでございます。他の皆さん。ないようでございますれば、次の段に入りたいと思います。

(2) 第3期松江市スポーツ推進計画（案）について

○松浦会長

それでは、第3期松江市スポーツ推進計画（案）について事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

はい。続けて説明をさせていただきます。資料3をご覧くださいと思います。

第3期のスポーツ推進計画の策定の方針についてということで、まず、このスポーツ推進計画につきましては、スポーツ基本法の中で、推進計画を定めるよう努めることとされているものでございまして、現在の松江市の第2期のスポーツ計画の特徴といたしましては、従来、スポーツ部局というのは教育委員会の中に入っていることが多いんですけれども、松江市の場合は、平成30年に教育委員会から政策部、そして今は文化スポーツ部にありますけれども、市長部局の方に移っています。そういった中で、スポーツだけではなくて、健康づくりとか、観光振興など、そういったいろいろなものを結び付けて、まちづくりを分野横断的に進めていく計画として策定したものでございます。そういった中で第3期の松江市スポーツ推進計画の策定方針、基本的な考え方でございます。まず基本理念といたしましては、松江市総合計画「MATSUE DREAMS 2030」というのがございますので、こちらとの整合性を図るということで、この「MATSUE DREAMS 2030」には、「スポーツが松江の存在感を高めた」と市民が実感できるというものを掲げさせていただいておりますので、こちらの実現を基本目標として進めさせていただきたいと思っております。計画期間でございますけれ

ども、令和7年から令和12年までの6カ年計画とさせていただきたいと思います。これまでの計画というのは大体5カ年計画が多かったと思うんですけども、6年にさせていただくのは、2030年に国スポ・全スポが島根県で、松江市でも12競技が開催されますので、ここまでを一体となった計画として作っていきたいということ。あとは、基本理念として総合計画を掲げておりますので、総合計画も2029年までの計画となっておりますので、2030年に新しくスタートする総合計画も踏まえながら、第4期の計画を作っていくという考えで、今回は6カ年の計画としたいと考えております。次に市民ニーズの反映ですけれども、こちらは皆様方のご意見はもちろんのこと、アンケート調査、ヒアリングなどをとりまして市民の皆さんのニーズなども把握しながら策定をしていきたいと考えております。そして、SDGsの視点、評価指標の設定ですけれども、こちらも近年当たり前のように言われているところがございますので、こういった視点も踏まえながら、作っていきたいと考えているところです。

続きまして資料4をご覧くださいと思います。こちらがスポーツ推進計画の策定に向けたスケジュールでございます。上から2番目のスポーツ推進審議会というところをご覧くださいと思いますけれども、8月のところで第1回の審議会をさせていただきまして、その後、我々の方で関係団体等へのヒアリングなど、あるいはワークショップなども開催をしていきたいと思っております。それを受けまして、10月に第2回の審議会第3期計画の素案を提示させていただき、パブリックコメントなどの意見も反映をしながら、第3回の審議会を2月に開催をして最終案をお示しさせていただき、最後3月に答申をいただければと思っております。

それでは具体的に第3期の推進計画のたたき台ということで、資料5をご覧くださいと思います。

基本理念といたしましては、『『スポーツが松江の存在感を高めた』と市民が実感できるまち』と掲げさせていただいております。これがまさに総合計画と同じ作りの中で進めていければと考えているところです。

基本目標といたしましても、それぞれスポーツによる「ひとづくり」「つながりづくり」「なかまづくり」「しごとづくり」「どだいづくり」というものを掲げております。これは、総合計画の中に5つの柱というものがございます。この5つの柱がそれぞれ「しごとづくり」「ひとづくり」「つながりづくり」「どだいづくり」「なかまづくり」ということでして、この柱と合わせた計画をスポーツバージョンで作る、というふうに考えているものでございます。ただ、それとは別に、重点施策ということで入れさせていただいているのが「島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組みの推進」ということでして、こちらは基本目標すべての項目に関わってくるというところもありますので、別出しで掲げているものでございます。

さらに重要成果指標といたしましては、こちらは今回新しく出てくる数字ですけれども、「1年間にスポーツに関わった市民の割合」というものを入れさせていただこうと思ってお

ります。1年間で、する、みる、ささえる、こういった形でも結構ですので、スポーツに関わった市民の皆さん、こういった方々をより多くしていきたいという中で、この数値を掲げさせていただいております。その下にぶら下がる数値目標といたしましては、「成人の週1回以上のスポーツ実施率」、こちらの目標値を70%。こちらは松江市総合計画の中の目標数値として掲げているものを入れております。そして、その次は、「島根かみあり国スポ・全スポに関わった市民の割合」ということで、こちら大きなイベントになってきますので、別出しという形で出させていただいているものになっております。

次のページに、イメージとして、真ん中に「スポーツが松江の存在感を高めた」という市民の実感をもとに、この5つの柱をもって、最終的には「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」、総合計画の一番の目標に繋がっていく、というふうに作っているところでございます。具体的な内容につきましては、次ページ以降をご覧くださいいただければと思います。

それぞれの5つの柱についての項目についてご説明させていただいております。この資料の見方ですけれども、1番目の四角囲いというところは、それぞれの柱の考え方を示しております。その下に「『MATSUE DREAMS 2030』の関連記述」ということで、総合計画の中の関連する記述を入れております。次に「基本施策」と書いておりますけれども、こちらが第2期計画の中での基本施策を、例えば「ひとづくり」の中ではここに当てはまるのではないかといいことを入れてさせていただいたものになっております。さらにその下に、「新たな取り組み・今後の重点施策」というものを設けておりますけれども、第2期計画になかったもので、新たに加えた方がいいのではないかと事務局で考えているものを入れてさせていただいたところでございます。そして最後に「成果指標」ということで、こちらは第2期計画の中にあつた成果指標をここに当てはまるのではないかといいことを入れたものでございます。

そういたしますと、時間をとって恐縮ですけれど、ちょっとずつ説明をさせていただければと思います。

最初に「スポーツによる『ひとづくり』」というところですが、こちらの主な目的といたしましては、こどもから高齢者まで、競技志向の人、また健康志向の人、すべての人がスポーツに親しむことができるように、様々なニーズに対応したスポーツの機会を提供します、ということで、スポーツをする人の視点での目標と考えております。スポーツをする人を作っていくというところでございます。基本施策については、「子どものスポーツ活動の推進」、「大人のスポーツ活動の推進」、そして、「障がい者スポーツの普及と理解促進」ということで、スポーツをやっている皆さんの活動をさらに推進をしていくということを掲げております。また、「気軽に楽しめるスポーツの充実」、そして「スポーツを通じた健康長寿社会の実現」、スポーツを楽しみながら人生の糧としていただく、或いは健康寿命を延ばしていただくということ、こちらもちょうどスポーツをする人の視点で入れていただいております。次が「競技力向上のための支援」ということで、スポーツをする中で、やっぱりトップアスリートを目指される方とかもいらっしゃいますので、そういった皆さんの支援と

いうことも入れさせていただいているところです。新たな取り組みとしては、「中学校部活動の地域移行」について入れております。こちら、教育委員会とも連携をとりながら話を進めていくことにはなりますけれども、当然スポーツ庁も掲げている大きな課題になっておりますので、なかなか答えは簡単には出ないものではありますが、今後検討が必要かなというところで入れさせていただいております。成果指標についてはそれぞれご一読いただければと思います。

次に、第2の項目としましては、「スポーツによる『つながりづくり』」としております。1つ目が「ひとづくり」ということでスポーツをする人の視点だったんですけれども、2つ目の「つながりづくり」は、松江市の中でスポーツをする人、みる人、ささえる人、そういった皆さんをつなげていくという、市内の横の連携というものを想定しております。市民が一体となって、スポーツに触れる機会を提供することで、市民同士の絆を深めたり、松江に対する誇りと愛着を育てていただいたり、ということを目指しております。総合計画の記述についてはご覧いただければと思いますが、基本施策といたしましては、「スポーツによる世代間・都市間交流の推進」ということで、例えば今年は市民体育祭が8年ぶりに実施されますけれども、そういうような幅広い年代が参加するスポーツイベントの開催。また、「誇りと愛着を生むスポーツ文化の醸成」ということで、岸清一先生や松江市出身のオリンピック、あるいは国際大会で活躍する選手などの表彰や、こういった選手がいらっしゃいますよということをお知らせするという。そして、『『みる』スポーツの推進』というものは、トップレベルのスポーツ大会の開催の支援をしていくこと。また、「プロスポーツによる地域活性化」ということで、島根スサノオマジックさんの活動について、我々も一緒になって応援をしたり、交流機会を創出したり、そういうことを掲げているところでございます。こちらについて新たな取り組みというのはございませんけれども、成果指標としては、先ほどの島根スサノオマジックさんの観客数を挙げさせていただいております。

次に、3番目の「スポーツによる『なかもづくり』」でございます。この「なかもづくり」というのは、先ほどは市内のつながりを作るという趣旨でしたけれども、市外の皆さんとの連携をしていくという趣旨でございます。スポーツ交流事業などを通じて、国内外のまちとの絆を深めていくということとしております。基本施策としては、「こどものスポーツ活動の推進」、「大人のスポーツ活動の推進」、「スポーツによる都市間交流」というところで、松江市は宝塚市と姉妹都市になっておりまして、スポーツ少年団交流は50年を超える交流を続けていただいておりますし、そういった活動の支援を進めていくことを入れさせていただいております。新たな取り組みといたしましては、「スポーツによる国際交流等の推進」ということを掲げさせていただいております。コロナも明けましたので、松江市としての姉妹都市がたくさんございますし、あるいは台湾、台北市などとの交流もございます。また国内でも、姉妹都市を結んでいながらスポーツ交流ができていない大口市さんですか、珠洲市さんなどがありますので、そういったところとの交流も進めていければということで、新たな目標として掲げさせていただいているところでございます。

次に4つ目、「スポーツによる『しごとづくり』」です。「しごとづくり」というとちょっとピンとこない皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、スポーツを目的にして松江に来ていただいた方が、宿泊ですとか観光などをして消費を拡大していただくということで、地域経済の好循環を生み出せるものと思っております。あるいは、松江でスポーツをする人たちが増えることによって、スポーツイベント開催をしたりすることで、そこに関わってくるいろいろな事業者の皆さんも仕事が増えていくというところを考え方として持って挙げさせていただいているところです。基本施策といたしましては、再掲になりますけど、「プロスポーツによる地域活性化」ということで、島根スサノオマジックさんとの連携によりまして、いろいろな地元商品の販売とかができるようになればというところ。或いは「スポーツ観光との連携による地域活性化」ということで、例えば松江城マラソンなどで、ツアーを組んでみてマラソンに来て泊まって観光していただくというような取り組み。また最後の「スポーツ関連ビジネスの活性化」ですけれども、先ほど申したようにスポーツをする人が増えれば、民間のスポーツクラブやスポーツ教室に通われる方も増えてくるかと思っておりますので、そういった意味でスポーツビジネスが活性化するというところが考えられるかと思っております。

最後5番ですけれども、「スポーツの『どだいづくり』」です。こちらは、まさにささえるスポーツの部門になりますので、スポーツをささえる人や組織の活動を支援するということと、松江市が持っている施設、スポーツに取り組む環境を整備していくというところを挙げております。

基本施策といたしましては、「障がい者スポーツの普及と理解促進」ということで、2030全スポもごございますので、障がい者スポーツの体験機会ですとか、パラアスリートなどを招いた講演会などを進めていくこと。また「スポーツを推進するリーダーの育成」ということで、競技ごとの指導者、あるいは地域で活動するスポーツ推進委員の皆さんの育成や活動支援。あとは「スポーツを推進する組織の育成・強化」ということで、松江体育協会さんですとか地域体協の皆さん、そういったいろんな組織の皆さんの活動を支援していくこと。そして「スポーツ施設の整備・利活用」ということで、こちらは施設の適切な管理運営を挙げております。そして新たな取り組みといたしましては、「障がい者スポーツの普及と理解促進」というところを、再掲として加えさせております。とりわけ障がい者スポーツというのは、県を中心に取り組んでいただいているところではありますけれども、実際に市の中でも、気軽にどこか相談できたり、気軽に実施できたりする環境っていうのがあれば、また障がい者スポーツが進んでいくのかなというところもありますので、新たな項目として加えさせていただいた点でございます。

以上のところを、基本的な考え方、たたき台として、第3期計画を進めていければと考えております。本日これをお示しさせていただく中で、皆様方から、こういったものを加えた方がいいのではないか、或いはこういった視点があればいいのではないか、というご意見を頂戴しながら、第2回の審議会では、そういったご意見を踏まえて、素案をお示しさせてい

ただければと考えているところです。私からの説明は以上となります。

○松浦会長

説明が終わりましたが、なかなか今回は多岐に渡りまして、いろいろな分野に対する計画が発表されたところでございます。皆さん方に該当するところ。お得意な分野があるんじゃないかと思っておりますが、そういう面から、なんでもよろしゅうございますが、今日のところは頭出しということで、こんな話こんな話というのを、花火のように打ち上げておいていただくと、次にまたよい意見交換ができるんじゃないかと。

それでは、ご意見をどうぞ。

〔湯町委員 挙手〕

○松浦会長

はい。

○湯町委員

体協の湯町です。よろしくお願いします。たたき台を示していただきまして、総合計画の繋がりからスポーツが「松江の存在感を高めた」と市民が実感できるまち」というものに持っていくということは理解いたしますし、この資料を見ても、ああなるほどなと思うところです。ただ、今、資料の頭にいきなりこの「スポーツが松江の存在感を高めた」というのが出てくると。一体この、存在感を高めるってどういうことなのか、具体的にどういうことなんだろうと考えてしまうところでして、昨日ちょっと職場で話したら、例えば、スサノオさんに全国で活躍してもらってことなのかなあとか、トップアスリート、そういった人たちを育てて全国で活躍してもらってことなのかな、と。地元で市民スポーツをいろいろ楽しんでいる人たちはどうなるんだろうねという疑問が湧いてくる場所がある。実際資料を見るとそれだけじゃないってことはよくわかるんですけども、そのあたり、改めて「存在感を高めた」ってどういう意味なのか、説明していただくといいかなと思います。

〔佐々木課長 挙手〕

○松浦会長

はい。どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

ありがとうございます。確かに「存在感を高めた」となると外側向けのイメージ、スポーツで松江の人、チームが活躍して松江が有名になったとか、そんなイメージになってくるのかなあと思うんですけども、市の中でスポーツをやっている皆さん方というの、もちろん対象に入れてさせていただいておまして、先ほどの総合計画の資料の中でも掲げておりますけれども、市民の皆さんがスポーツを楽しんだり、そういったコミュニティができるってことによって、まちとしても当然注目をされるということですか、スポーツをできる環境がたくさんあるということは周りの方々もそこに向かって来ていただいたりということも出てくるのかなあと思っております。

○事務局（桑原部長）

松江市総合計画に書かせていただいております中で、「スポーツが松江の存在感を高めた」の左の下のところに「自然環境を生かしたサイクリングやジョギングコースの施設が整備されて気軽に楽しめる。」などと書いてございますけれども、私も夕方に宍道湖岸を走ったりして、たまに大塚委員さんと一緒にさせていただいたりいたしておりますけど、こんないところっていうのは他になかなかない。よその都市に旅行に行ったときに走ったりもするんですけども、こんないところはないなということを常々思いながら走っているところでございます。そういったような情報発信を行って、よその地域の方から、こんないところだったら走りに来らんといけんわ、みたいになっていただいたりすることも、書いてありますように、存在感を高めるということになるかなと思っておりますことから、説明をもうちょっとこの中でも、総合計画を見ていただかなくても分かるような、そういったような形のことは、工夫をして参りたいということを思っております。ありがとうございます。

○松浦会長

よろしゅうございますか。

〔湯町委員 挙手〕

○松浦会長

どうぞ。

○湯町委員

はい。最後に私が言おうと思っていたことを、部長さんにまとめていただいて、これだけ見ると分かりにくいですので、分かりやすく説明していただければというふうに思ったところでした。以上です。

○松浦会長

はい。貴重なご意見ありがとうございます。他にどうぞ。

〔山縣委員 挙手〕

○松浦会長

はい、どうぞ。

○山縣委員

地域体協の山縣です。資料を前もってよく読ませていただいたんですけど、本当によくできて、本当に細かいことまで書かれていて感心してはいたんですが、コロナ前に作られたものと、コロナが終わってから作られるものと、状況は何が変わったのかなと思って考えたら、昨日、一昨日、新聞を見ると、こどもの貧困、すごく収入がない家庭が増えて、こども食堂を作って、食べることに困っていてそこに行くこどもがいる、そういう社会状況、本当に貧困家庭が増えているっていうのを読んで、スポーツするどころじゃないのかなと。まずここで「障がい者スポーツの普及と理解促進」を新たな取り組みに加えるのに、もうひとつ、そういうふうに、スポーツしたくてもできないと思うこどもたち、貧困家庭のこどもたちをどうやってスポーツの方に興味を持っていただくかっていうような視点もちょっと考えていただけたらどうかなと思います。ちょっと私もいろいろ考えて、こども食堂に来られること

もたちに、新しくスポーツコミッションとかスポーツボランティアバンクとかができるんですよね。その人たちが、食堂で、簡単なダンスやこどもたちと一緒にできるような簡単なスポーツをしてもらえると興味を持ってくれるのかなとか、いろいろな形、私なりにちょっと考えてみたんですが、どんなもんですかね。今後、国民スポーツ大会で主になる小学校の高学年のこどもたちに何とかスポーツに興味を持っていただくようにしていただくと嬉しいなと思います。よろしくお願いします。

〔佐々木課長 挙手〕

○松浦会長

はいどうぞ。

○事務局（佐々木課長）

貴重なご意見をありがとうございます。今、我々の中では、1番の「スポーツによる『ひとづくり』』という中の「子どものスポーツ活動の推進」に類する部分とっておりますけれども、今おっしゃっていただいたように、そもそも機会の提供がないというようなところは、確かに言われるように、第2期計画以降そういったところが大きく出てきたのかなと思っておりますので、そういったものも素案の中で何かしら反映できる場所があれば、検討してみたいと思います。ありがとうございます。

○松浦会長

さあ、意見がどんどん出だしましたが、引き続いて、ご意見ご質問がある方どうぞ。

時間が余っても困りますので、今の関連で私の方から。

コロナで非常に人材の繋がりが薄くなってしまった。特に地域体協とか、そういうところでは、今年は大運動会を開催される予定と伺っておりますけれども、人を集める。そしてチームを作る。そのスタッフの関係が非常に薄れておる。コロナで活動ができなかった、コロナのせいにするわけじゃないんですが、やっぱりこの際もう一回再確認をして、そういう得意な分野の人たち、人間関係を作ってもら、それがスポーツの役割かなと思っておりますのでございますが、いかがでございますか。

〔大塚委員 挙手〕

○松浦会長

どうぞ。

○大塚委員

観光協会の大塚です、観光協会の話と関係ないんですけど、私どもの古志原地区も大きな運動会を毎年していたんですけども、残念ながらコロナで中止していて、今年も中止になりました。中止になったといいますか、やめになったみたいな感じで。公民館の中で話をしたときに、選手召集も大変だったけども、コロナの間は楽だったと。選手を集めたりするのも大変なので、近所とのつき合いもないし、お願いするのも面倒くさいし、大変残念な理由ですが、やめようという意見が通りました。コロナがあっただけ良かった、コロナの時は楽で、っていうのが本当に率直な意見。大変残念な状況です。あんまりコロナのせいには

りせずに、もう1回ゼロからやり直していかないといけないと個人的に思っています。

全然話が違うんですけれども、私たまたま、湯町さんなんかと一緒に、市民レガッタを30年以上させていただいています。今回の資料の中ではレディースマラソンとか松江城マラソンとかもありますが、やっぱり、水郷都市松江としてすごく松江の存在感のひとつかもしれませんし、マラソンは個人競技ですけれども、人との繋がりや、チームを組んでやるスポーツで、しかも、松江市が当初支援をして、その協会の方々も大変なご尽力をされて、大きな大会になった。それがコロナ禍のせいばかりでもなく、ちょっと、右肩下がりという感じになっているというのはちょっと残念です。とても大きないい大会で、関係者の皆様が育まれた大会で、僕は誇りに思う大会だったと思うんですが、それがいろんな事情があって、艇庫がぜんぜん違うところにあるとか練習場が違うところにあるとか、今年はちょっと違うような話を聞いていますけど、やっぱり松江の真ん中で練習していらっしやると、それを見た中学生とか高校生も、いわゆる水面利用をしてスポーツをしてみたいなど、松江はそういうところだよなっていう感覚を持っていて、すごくいいスポーツだと思ったので、ああいふスポーツがどんどんできるといいし、例えばマラソン以外も何か、今回下がっていますけど、また盛り返していくような指標を持って、マラソンばかりじゃなくて、もうちょっと何かあるんじゃないかなと思って、私はたまたま個人的に関わったのがレガッタですけど、松江らしさだと思うんですが、ああいふスポーツも拾って指標を出してもいいかなと思ったことと、ついでもですけども、マラソン大会もこれ全国から参加していらっしやいますので観光協会としてありがたいんですけども、やっぱり市として松江の市民が一体何人参加されたかたつというの簡単に出ると思うので、そういったのもまた報告として出していただくとうれしいなと。

○松浦会長

ありがとうございます。他にいかがでございますか。

〔白水委員 挙手〕

○白水委員

日本政策投資銀行の白水と申します。この度このような機会をいただきまして本当にありがとうございます。私がこういう機会をいただいたのは、経済的な視点とか、金融機関の立場ということで、何かしら、お役に立てるように頑張ってくれというような背景だと理解しておりますので、しっかり貢献できるように努めたいというふうに思っております。よろしく願いいたします。そういう視点で今後しっかり読み解きながら、他の周辺情報も参考になりそうな他の地域の情報もしっかり調べながらまた情報提供させていただきたいと思いますが、まず資料拝見して、思ったところを2点だけ、先にご案内させていただきたいと思っております。

1点目が、先ほど部長様からもありましたが、やはりこの地域でスポーツを楽しめるというのは、多分かなり特徴的というか、私は福岡出身でこの地域に2年前に来たばかりなんですけれども、こういう自然が溢れた環境でスポーツができる、これは多分全国でもなかなか

かないエリアだと思います。景色も含めて恵まれた環境だと思います。こういった地域特性をしっかりと生かすというところと、やはり地元の方々が楽しめる、楽しんでもらうっていう視点がすごく大事じゃないかなという気がしています。先ほど中村様からもありましたけど機運醸成というか、最初に冒頭市長からもありましたけど、スポーツの原点は、感動を与えられて、かつ皆さん楽しめるというところが、スタート、大きなポイントとしてあると思いますので、そういう観点で、この地域で、地域の方々にスポーツを楽しんでもらえるというところが、出発点、原点ではないかなというふうに感じました。そういう意味で、いろいろな目標をいっぱい作っていただいてマンパワーが多少気になるところではありますが、そこはメリハリをつけていただきながらやっていただくのかなというところと、加えて、そういう観点で参加型のイベントをしっかりと、本当に大活躍いただいているいろんな人を呼び込んでいただいていますので、やはり参加型で、できるだけ皆さんに楽しんでもらえるというところが大事なかなというふうにまず思いました。

2点目は、金融機関の視点なんですけれども、他の施策との連携です。観光とか、県立プール跡地を有効活用したまちづくりとか、何個か参加させていただいている委員会があるんですが、それぞれの委員会が単独でやってしまうと、やはりもったいない。連携できるところは他の施策としっかりと連携いただきたい。他の委員会での取り組みをできるかぎり情報提供いただきながら、委員の皆様が、メリハリをつけながら、この委員会ではこの取り組みが大事だ、というのが全員わかるように議論していただくと、今後有益な提言に繋がるんじゃないかなというふうに考えております。

○松浦会長

貴重なご意見ありがとうございました。引き続きまた、情報をご提供いただければと思っております。よろしく願いいたします。いかがでございますか。

〔安部委員 挙手〕

○松浦会長

はい、安部さん。

○安部委員

松江市障害者スポーツ協会の安部です。以前からいろいろ施策などかんがえていたんですけども、障害者手帳や療育手帳があるかないかっていうのは、あまり関係ないと思います。年を取ったら足が弱ります。背の低い人は高いところの作業ができません。これも考え方によっては障害です。たまたま手がなかつたり足が動かなかつたり、いろいろありますけれども。

今回はスポーツの話ですけども、スポーツっていうと、私が考えるからかもしれませんが、やっぱりトップアスリート、メダルを取って帰るんだみたいな、そういう意識になっているんじゃないかなっていう感じがしています。何かスポーツを始めようって思ったときに、年を取っているから今更聞けない、あるは、何かやってみたいんだけど、ルールとか分からないしどうやっていいの分からない。ましてや、いきなり知らない人のところに行っ

て、サークルや練習に飛び込んで話をするっていうのはちょっと気が引ける。障がい者の方が多いんですけども、もちろん全員じゃないんですけど、そういうところに入っていったら足手まといになるんじゃないかと感じてしまう。そうすると、そこまで高度なスポーツじゃなくても簡単にできるものをもっと広げていく、あるいはどんどん参加してもらってということが非常に重要じゃないかと思っております。実際の場合としては体育館とかいろいろあるんですけども、そういうサークルとかあるいや練習会に参加させてもらえるものの、行ったら会員にならないといけないとか、始めたらそのまま続けなきゃいけないとかっていう、最初のハードルというか敷居が高い感じを持っています。そういった面で、結局、人間関係なのかなど。知った人がいると行きやすい。普段からいろいろ話をしたりということが重要だと思っております。

あと、実際のところ、何かを始めたり、何かをしたいなと思っても、どこで何をいつやっているのかっていう情報が、なかなか自分のところに入ってこない。もしかしたら私が知らないだけかもしれませんが、それぞれのグループが、どこで何をやっているか分かる総合窓口のようなものが必要なのかなど。あれもやってみたい、これもやってみたいと思いながら、どこへ行けばそれがよいか、誰に電話するとよいか分からない。そういった中心的な場所があると嬉しいなど。そこに行けば何かやっている、あるいは情報を持っているというようなところが欲しいと。

あと、インフラの関係で言いますと、障がい者の話でいうと、道路、交通です。点字ブロックやスロープがあるんだけど、歩道に傾斜がついているとつらいです。横の傾斜のところを車いすであるくというのは、非常につらいです。押す人もつらいです。そこら辺いい機会に考えていただけたらと思うのがひとつ。

それと先ほど、先ほど山縣さんも言われましたが、スポーツの会だけでなく、いろんなイベントがあると思います。あんまり大きいとスタッフが大変なんですけど、手軽なニュースポーツなんかと一緒にやっていただくっていうようなことをやれば、もっと広がるんじゃないかと。実際、レクフェスとか行きますと、こどもたちもいっぱい来て、帰りがけに、もっとしたい、来週もしたいとか言うんですけど、毎週毎週、あるいは毎月1回もすることができなくて、そのままトーンダウンして終わっちゃうっていうのが何年も前から続いています。私もまだ答えが出ていませんけれども、何か機会を増やすいい方法がないのか、お知恵を拝借できればと思います。

○松浦会長

わかりました。それぞれ貴重な意見がこういう中に含まれている。

〔岸本委員 挙手〕

○松浦会長

岸本先生どうぞ。

○岸本委員

中学校体育連盟の岸本でございます。平素からの中学校体育連盟の活動にご支援をいた

だきましてありがとうございます。スポーツ推進計画の中にも、こどもたちのスポーツに親しむ環境ですとか、マラソンですとか、いろいろな機会を作っていただく、それをこどもたちが積極的に主体的に取り組める環境を作っていただいていることに、感謝を申し上げます。加えて、競技力向上ということで、今年度も全国大会、中国大会で島根県の中学生が活躍してくれました。これが、かみあり国スポに繋がっていくことが非常に大事なかなというふうに思っております。

「スポーツによる『ひとづくり』」のところで、部活動の地域移行について、新たな取り組みとしてご支援をいただいております。現在の進捗状況としましては、来月に松江市でも独自にあり方検討会というのを発足して、松江市の中学校の部活動の地域移行をどのように進めていくのかということの話し合いを進めていくという段階になっております。現状としましては、中学校長会でも、このことについて話題にして取り組みを進めているところですが、一足飛びに地域移行ということはなかなか難しい、まずはできることからということで、今進めているところでございます。実態としましては、体協さんと一緒に出場する駅伝大会、市町村別に出る大会があって、選手の派遣等もあつたりしますので、地域の体協の方に中学校に足を運んでいただいて、合同の練習会を開催したりとか、お手すきのときにはボランティアで中学校の部活動に指導に来ていただくとか、そういった取り組みも少しずつ進めながら、この地域移行の取り組みを進めていかなければいけないなということを感じているところです。詳しいことはまた、検討会でいろいろ協議を進めていくことになると思いますけれども、地域移行については保護者の方も非常に興味を持っていらっしゃることもありますし、市内でもクラブチームとして、学校とは違うクラブ主体のチームもいろいろ発足しておりますので、そういったところ、また競技連盟とも連携しながら進めて参りたいというふうに思っております。

最後に1点、実は令和8年度に、全国中学校体育大会が、島根県で3種目開催されることになっております。種目はソフトテニス、野球、バスケットボールでございます。松江市では、ソフトテニスの主会場となる予定になっております。これについても、ひとつは競技力向上、もうひとつは大会運営、いわゆる役員の養成ということが大きな課題となっておりますが、こういう全国大会を迎えるというきっかけをもとに、中体連としても、そういった広がりが進んでいけばいいかなというふうに感じているところでございます。以上です。

○松浦会長

現状報告ありがとうございました。何か先が非常に明るくなる話題ができています。

ここで西村副会長さんいかがでしょうか。

○西村副会長

貴重な意見いろいろありがとうございました。お話ししながらいろいろ考えさせていただきました。一番初めにお話いただいた基本理念のところですけど、私も2点思うところがあります。

「スポーツが松江の存在感を高めた」というときに、主語は何なのかなと思っております。

松江市総合計画 MATSUE DREAMS 2030 ですと「夢を実現できるまち、誇れるまち松江」。夢を実現できるのは誰かなと言ったときには、これは主語が市民。ところが「スポーツが松江の存在感を高めた」と言ったときは、松江市が中心、主語にあるような気がしていますが、そうではなくて、こちらでスポーツがあったことによって、松江の市民が、松江に住んでいてよかったとか、健康になれてよかったとか、松江にいたことを誇れるような、そういうような形を市民が中心にいるような理念になるといいのかなあという感じを受けました。松江市総合計画にも「スポーツが松江の存在感を高めた」という言葉はあるんですが、スポーツ推進計画では、松江に住んでいてよかったなと思えるようなものにできたらいいなという感想を少し持ちました。

加えて、令和6年度までの成果指標の推移をお示しいただいたんですけれども、その中でひとつ気になるのは、島根県の人口って残念ながら70万を切って68万ぐらい、その後もその減る傾向にある。減るのが絶対悪いわけではなくて、その中で質の高い暮らしがあればいいと思っていますが、松江市の人口は2020年のところで20万3000人ぐらい、今後2030年に向けて、見通しとしては残念ながら多少減ると思う。その中で、絶対的な数字を指標にするっていうのは問題だと思っています、例えば、人口が減る中で、その中の比率としてどうなっていくのか。島根県は、全国で最初に高齢化率が高くなる、かつそれが安定した島根県は、その特徴を生かして全国に先駆けたスポーツ環境を提供できる県、あるいは松江市でもある。人口構成比といったところから、具体的な数字を言ってもいいのかなと思います。例えば、健康寿命ですとかスポーツ実施率、施設の利用率について、年代別にどれくらい利用率があるのかっていうもう少し細かいデータが取れると、利用率の低い年代に積極的に働きかけるような施策がとれる。また、近年あまり言わないですけれども、性別においても、男性のスポーツ実施率、女性のスポーツ実施率。私の種目では屋外スポーツなので女子の実施率がすごく落ちていまして、日焼けが嫌なのかとか言われるんですけれども、本当にそうなのかどうか。あとは障がい者スポーツの話も出ましたけれども、どういった障がい者の方々の実施率が実際にどうなのか。といったところを少しデータの掘り下げることによって、少しより詳しい施策の成果目標が設定できるんじゃないかな、こういうような感じを持ちました。

それ以外のところでは、なかなかハードを作っていくって難しいですよ。そういったところでソフトウェア的なもので人々をスポーツに誘うようなこと。その支援となるのがICTだと思うんですけれども、施設の運用ですとか情報提供といったところで、ICTの視点から積極的に施策を展開することもひとつの手段かなというふうに思います。関連して、本当に松江市のいいところは自然がすごく近い。僕自身も、大学で授業しながら、1時間で大山まで行けちゃう。水泳実習をするのに、北浦まで20分ぐらいで行けちゃう。そういう素晴らしい環境があるからこそ、水辺に親しんだり、冬はスキーやスノーボードが楽しめたりと、そういう情報や場を提供していく環境整備する。ソフトウェア的なものを整備することで、例えば松江の道路に、ここからここまで何百メートルみたいな指標がちょっと印刷し

であるだけで、ウォーキングしてみようか、ジョギングしてみようかとか。綺麗なサイクリングロードが整備されてなくても、ここだけ自転車で1周すると何カロリー消費したという表示があるだけで活動を促すことができるとか。そういう安価なソフトウェア的な部分での整備みたいなところを、施策として盛り込むことができるのかなというところを、皆さんのお話を聞きながら感じました。

まだお話いただけない方々もいらっしゃると思いますので、ぜひともそれぞれの専門の立場のところから、もう少しお話いただけたらと思います。是非ともよろしく申し上げます。

○松浦会長

何か中間まとめみたいな話。大変参考にさせていただきたいと思います。

いかがでございますか、お話、何かあればどうぞ。

〔中村委員 挙手〕

○松浦会長

はい。

○中村委員

失礼いたします。ちょっと話しにくくなったんですけども。KPIに、当クラブの活字がかなり一杯出ておまして、そろそろ松江スサノオマジックに変えなきゃいけないのかなと思うぐらいの感じではあるんですが。

先ほど湯町委員がおっしゃったとおり、基本理念の、存在感、プレゼンスを高めるというところなんですけれども、これって何なのかなと私も考えていました。日本の中でスポーツでプレゼンスが上がって地域ってどこなのかなと考えたんですけど、平塚湘南のサーフィンくらいしか思い浮かばなくて。結局特徴を出すということだと思うんですけど、何かもうちょっと腰があるものが何かひとつあったほうが、シンボリックでいいんじゃないかなと思ったところなんです。その中で、皆様方のお話を聞いていて思ったのは、例えば、国宝松江城マラソン、レディースマラソン、あと、えびす・だいこくマラソンだったりとかもあって、そういうことからすると、例えば、マラソンのまち松江っていうふうなことを、特徴として打ち出すこともひとつかな。

それともうひとつ、やっぱりスポーツっていうのは、平等でなきゃいけない。先ほど言われたとおりで、貧困、スポーツしたくてもできない子どもたちがいらっしゃる。あるいは、先ほど安部委員が言われたとおり、例えば障がい者の方って考えたときに、テニスなんかでもニューミックスっていう、健常者と障がい者の方が一緒になってダブルスで組んだりとか、車いすバスケットなんかでも健常者が入ってそのままやったりとか。益田市では、車いすバスケットを市民体育館で自由に利用できて、利用制限をしたくなる場所も分らないことはないんですけども、ただ益田市はそういったことをバリアフリーでやっている。例えば、スポーツのバリアフリーということを進んでいる県、市だったりとか、松江市としてどういうふうなまちづくりをやっていくんだ、このまちの子どもたちにどんな未来を作っていきたいんだということなんかを長く具現化するような、例えば、もっとバリアフリー社

会を作ってみましょうよってことだったら、それをスポーツで実現するようなメニューが何かあっても、松江市っていったらこうだよ、バリアフリーにすごく取り組んでいるよねというふうなことなんかができるようになっていくと、すごく面白いんじゃないかなっていうことを思いました。以上です。

○松浦会長

ありがとうございます。いかがでございますか。

〔三島委員 挙手〕

○松浦会長

はい、三島さん。

○三島委員

ではせっかくです。松江っていうところは本当にいいところでして、7月に商工会議所の女性会の中国大会を松江市で開催しまして、300名ちょっと中国地方の各地から、たくさんの方が来ていらっしやって、本当に良いところですねっていうお褒めの言葉をいただいております。2日目に市内の方私が代表してご案内をしたんですけど、和菓子作りの体験ですとか堀川遊覧。それからまた別のグループはVIVANTのコース。たまたま福澤監督もご同席いただきまして、本当に皆様に感激して帰っていただきました。それもありますし、それから来年はNHKで「ばけばけ」、せつさんを題材にしたドラマもあります。今、松江を全国にPRするには、本当にいい機会だと思っております。先日の大社高校さんの活躍もあって、今、日本全国で島根県の知名度は格段に上がっていると思います。これを機会に、スポーツを通じて、全国からたくさんの方に来ていただくように、何か松江市さんの方でも秘策を練っていただくと、スポーツをしに来ていただいて、泊まって、食べて、観光して帰っていただく、そういうことをしていただきたいなと思っております。

ちなみに、毎年されているんですけど、5月に島根町の方でちょっとしたバスケットの大会をされていました。小さなコミュニティなんですけれど、そのような大会でも、私の知人で大阪とか山陽の方からも、わざわざ大会をしに来ていただいて、昼間はバスケット、夜は飲んで食べる。そして次の日は観光して帰る。そういう流れができていると思うので、是非ともPR、企画の方をよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○松浦会長

はい。ありがとうございます。いかがでございますか。

〔山縣委員 挙手〕

○松浦会長

どうぞ。

○山縣委員

すいません。2度目ですが。それぞれの立場でお話されたので、私は地域体協の立場から言わせていただきます。先ほど言ったことと繋がるんですが、障がい者の方も高齢の方も多く、でも移動手段がない、連れていってくれる人がない。こどもたちもそうです。自分では

車を運転できませんので、行きたくてもいけない。お母さんお父さんも一生懸命働いているのでなかなか連れていってもらえない。そこで、公民館単位とか、歩いてでもいけるような身近なところで、何か楽しいこと、スポーツができるんだったら、コミュニティバスとかも走っていますので、高齢者の方も公民館まではコミュニティバスで行けると思うので、何かその辺から、スポーツをしたくてもできない方を救ってあげてください。よろしく願いいたします。

○松浦会長

ありがとうございました。

私の立場からすると、宝塚市さんと50年ほど、子どもたちが行ったり来たりしておるところです。毎年4種目60人ほどの選手が、指導者も付いて行っている。そしたら、20年ほど前、子どもたちだけでなく指導者もやろうじゃないかということで、生涯スポーツ交流というのができて、これも60名ほどで交流しているところです。そういう事例もございまして、大変喜んでいただいております。私が感じたのは、この間、松江体協さんで、子どものスポーツをイベントとして取り扱っておられました。スポーツの前に、市内で若いお母さん方お父さん方は、休みの日に安心して子どもと一緒に遊べる場所がほしい。そしてそれがスポーツじゃなくてもいいよというふうな話をたくさん伺っているところです。ぜひそういう面でも、ひとつよろしく願いしたい。

あとお1人か、お2人ですが。いかがですか。福田さん、よろしいですか。

○福田委員

はい。何かいろんな話を聞いてもうお腹一杯みたいな感じがしております。

実際体験というか、マラソンの大会で県外からいらっしゃった方がたくさんおられると思います。そういう方々が、口をそろえて、先ほど三島さんがおっしゃられたように、松江に魅力を感じて来ておられます。来られる方は、ほとんどの大会にノミネートして、松江に足を運ばれる。そういったことは、私たち地元の者としてはすごく嬉しいので、それが下降線をたどらないように、こういった会議を通して意見交換してやっていきたいという思いが生じています。具体的には、ランナーは、バターを使った洋菓子より、小豆を使ったお饅頭、これを背中にリュック必ず入れて走るとおっしゃいました。さっき和菓子作りの体験の話もありましたが、スポーツ関わる人にとっても、和菓子が、走りながらエネルギーを補給するものになっているっていうことに、私はびっくりいたしました。

それともうひとつは、Iターン、松江が好きで移り住みましたっていう人がおられて、話を聞いてびっくりしました。嘘じゃないかと思ったけど、本当の話で、松江が好きで、出張できたけれども永住することにしましたって言われまして、地元のイベントをどんどん紹介して欲しいっていうふうにおっしゃいました。こういったことが本当にあるんだっていう、思っすぎてうれしくなりました。

何かの役に立とうと思って今日はここに来ましたが、そういったことを伝えたり、皆さんからの意見を聞いて帰って、またいろんな意味で、意見を発表したり、議論を重ねていっ

て、役に立ちたいなっていう印象を持ちました。

○松浦会長

ありがとうございました。時間も迫ってまいりましたが、どうしても言っておきたいことがあればどうぞ。よろしいですか。坂元さん、どうぞ。

○坂元委員

皆さんとてもいいご意見をいただきまして、日々の生活に役に立てようと思っておりますけど。私のいる津田公民館では、毎月1回生きがい事業というのをやっております、高齢の方たちが、毎月1回、毎月違った身体測定、体重、身長、足先とか、いろいろ毎月変わったことをやっております。表を渡して、それに記入して、先月よりどうだったらこうだったっていう感じで。それが終わりましたらラジオ体操しまして、まつえっこ体操とか。それから歌をやりまして、もっとたくさん歌いたいとか心の健康。それから踊りもありますし、皆さん楽しく、それもひとつのスポーツだなと思っておりますので、続けていきたいと思っております。ありがとうございます。

○松浦会長

ありがとうございました。盛り上がってきてまだまだご意見がたくさんあるかと思いますが、そろそろ閉めをさせていただきたいと思います。西村副会長さん、お願いします。

○西村副会長

閉めということではないですけれども、いろんなお話を伺って、非常によろございました。次回のところで、中間的な提案をいただけるということですので、今のお話、様々出たご意見を取り込んでいただきたいなというふうに思います。

ちょっとだけ追加で気になったところですが、先週佐賀に泊ったら、すごい体育館ができていました。バスケの体育館を中心にして、周りの部分を大きくしてまちづくりをしている。松江では、スサノオマジックさんがここにいらっしゃいますけど、松江市総合体育館はすごく中心的な施設だと思います。こどもを連れてったときに、アミューズメントになるような大手前の通りがバーッとあるので、あそこに来たら、お城に歩いて行ってお茶や和菓子を楽しんだり、そういうような他の観光や様々なものと一緒になった施策がこれに盛り込めると、松江っていいな、スポーツで来たけれど他の施策と一緒に楽しめるな、というようなものがぜひともあるといいなと思いました。

あと佐賀の場合もそうですけれども、私の知っているスポーツですと、兵庫にビーンズドームっていう凄まじい体育館がある。テニスコートが9面、柱が一本もない施設。なぜそんなことができたかっていうと、名目は防災施設なんですね。防災の側面では、大橋川改修もされていて、洪水の対策とかはどんどんされてると思うんですけれども、スポーツっていうものをそういった部分とどんどん連携していくことによって、施設の面とか、様々な部分で市に貢献したりもすることができるのかなということも少し感じたところです。

先ほどちょっと出た中体連とかも、地域によってすごい違いがある。例えば、さいたま市の場合は、さいたま市が主導して、すべての部活動を地域に出すような方針にしているところ

ろもあります。でも9割方のところは、現状を維持しながら、子どもたちを中心に活動していくというところもある。

皆さんの様々なご意見を聞きながら、松江市ならではの、全国に誇れるような次の推進計画になればいいなというふうに思いますので、引き続き、皆様方の活発な意見をいただいた上で、最終的な答申に向かっていければと思っています。引き続き是非ともよろしく願いします。

○松浦会長

どうもまとめをいただいたようでございます。

それでは時間を迫って参りましたので、大変貴重な前向きなご発言をいただいて、感謝申し上げます。次の会が楽しみになるような気がしております。どうか次の機会までにご意見を温めていただきまして、活発な意見交換ができればと思っております。これで私の司会を終わりにして、事務局にお返しします。

8 事務連絡

○事務局（山尾係長）

松浦会長、円滑な議事進行をしていただき、ありがとうございました。

事務局から何点か事務連絡をさせていただきます。

○事務局（三原主任）

スポーツ課三原と申します。

まず、この会議の会議録でございますけれども、皆様のご発言をこちらで文字にしまして、皆様にご確認をいただきたいと思っております。メールもしくは郵送で、後日送らせていただきますので、ご承認いただければと思っております。

それから、委員報酬の振込口座に関しまして、まだご提出いただいてない方はお帰りの際に、スタッフまでお渡しいただければと思っております。

あと、本日、机に置かせていただいております意見提出票と、次回の会議の日程調整表というものがございます。意見提出書に関しましては、直接書いていただくか、もしくはこの後メールで皆様に様式をお送りしますので、来週の金曜日までのところで、もし何か追加のご意見がございましたら、私どもの方に送っていただければと思います。それから次回の日程調整表に関しましては、皆様のご予定を確認させていただきますので、ご都合がつかないところにバツをつけたものを提出いただければと思っております。

事務連絡は以上でございます。

9 閉会

○事務局（山尾係長）

それでは、閉会にあたり、文化スポーツ部長の桑原よりご挨拶申し上げます。

○事務局（桑原部長）

委員の皆様におかれましては、お忙しいところ、大変貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。スポーツに関するご議論をいただく中で、いろいろお話をさせていただいておりますと、課題はあるものの、何かすごく元気な気持ちになってきたなということでした。これもやっぱりひとつのスポーツの力かなということを感じたところでございます。

本日いただきましたご意見を踏まえまして、冒頭に松浦会長さんからお話いただきました夢のある答申に向けまして、夢のある素案を作成してまいりたいと思っております。委員の皆様におかれましては引き続きご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。

○事務局（山尾係長）

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回松江市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。

○事務局（一同）

ありがとうございました。

[11時46分 閉会]